

宮城県中学校体育連盟軟式野球専門部 秋季選抜大会規定・解説

宮城県中学校体育連盟 軟式野球専門部

1. 競技規則 2021年公認野球規則，競技者必携および宮城県中学校体育連盟軟式野球専門部会申し合わせ事項ならびに以下の大会規定による

2. 大会規定

【選手登録】

1 チームの編成は，監督（引率者）1名，選手9名以上18名以内とする。（18名以外にスコアラーを1名おくことができる）女子の参加も認める。この他に教職員，部活動指導員を2名追加することができる。ただし，外部コーチが入る場合は1名とし，計22名以内とする。

<解説>

- * 監督・部長は当該校校長・教員・部活動指導員，コーチは当該校教職員・部活動指導員または学校長が承認した外部コーチとする。
- * 監督・コーチは必ずユニフォームを着用する。
- * 監督がやむを得ない事情で一部の日程で引率，ベンチ入りすることができない場合は理由書（職印有り，任意様式）の提出によって，当該校職員の部長またはコーチが代理を務めることができる。なお，理由書は大会初日のチーム受付（通告）時に，大会事務局（専門部）に提出すること。
- * 部長は平服または選手と同一のユニフォームとする。
- * 他連盟登録の選手の出場は認めない。（二重登録の防止）
- * 全日本少年春季軟式野球宮城県大会とのダブル出場を認める。
- * 外部コーチを登録する際は，申込書を合わせて外部コーチ承認届けを提出する。また，学生および他連盟所属（プロ・高野連・大学野球連盟・中学硬式野球リーグ等）のコーチ登録は認めない。
- * スコアラーは，学校指定の奨励服または同一ユニフォームを着用すること。

【試合前】

- (1) 出場校は，定刻1時間前までに集合し，本部に通告すること。
- (2) 第1試合のメンバー用紙交換及び攻守決定は試合開始予定時刻の40分前とする。第2試合以降は前試合の4回終了時とする。各チームの監督と主将はメンバー表を持参し，本部役員と当該審判員とで打ち合わせをする。

<解説>

- * メンバー表は5通提出（対戦チーム，審判，本部，アナウンス，自チーム控え用）すること。
 - * メンバー表の様式は特に指定しない。ただし，全ての選手氏名にふりがなを記入すること。
- (3) ベンチは抽選番号の若い方を一塁側とする。ただし，1チームが2試合続けて行う場合はベンチの入れ替えをしないことがある。
 - (4) 危険防止のため，試合会場での練習において打撃練習はバントとトスのみとし，フリーバッティングなどは行わない。また，バットリング，鉄棒，マスコットバット，公認球以外のボール等，試合で使用できない用具の球場への持込を禁止する。
 - (5) 試合前のフィールドイング（シートノック）は原則として7分以内とする。

<解説>

- * 時間の短縮または省略される場合もある。
- * フィールドイング（シートノック）時のノッカーは，内野と外野の2カ所でも可とする。
- * 試合前の練習およびノックには，登録選手以外に補助員をつけることができる（5名まで）。
- * 補助員は背番号のないユニフォームもしくは練習用のユニフォームとスパイク，ヘルメットを

着用すること。

- * 補助員としてコーチを認める。また、コーチ1人のブルペン捕手を試合開始前までの間認める。(マスクを着用すること)
- * 次の試合の先発バッテリーは、オーダー交換後に球場内のブルペンを使用することができる。ただし、試合中の該当チームの監督に確認をとること。また、球場によっては使用できない場合もある。
- * マウンドは使用しない。

【試合中】

- (6) バット・マスク・ヘルメット等の用具は、試合前に審判員の確認に応じなければならない。
- (7) トーナメント方式で、正式試合は通常7イニングから成る。
- (8) 5回以降7点以上差がついた時は、全試合コールドゲームを適用する。
- (9) 攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者とランナーコーチは、ミーティングに参加せず、直ちに所定の位置に着くこと。
- (10) 攻守交代の時、投手またはプレートに最も近い野手が球を投手板近くに置くこと。
- (11) 試合中の球場内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。次打者席では投手が投手板に位置したら、投手に注目し、素振りはしない。
- (12) 投手の準備投球は、初回と投手交代の時は8球以内とするが、次回以降は4球以内とする。また、捕手、予備捕手は安全のためマスクをつける。

<解説>

- * 準備投球数は審判が状況を考慮して判断する。

- (13) メガホンの使用は監督のみとする。
- (14) 選手交代の申し出は監督が行う。コーチは試合前のノックを行うとき以外はベンチからでないものとする。
- (15) 審判員に対して規則適用上の疑義については、当事者と監督が直接質問することができる。
- (16) 本塁打を打った打者に握手を求めためにグラウンドに出てはいけない。
- (17) 『危険防止のための徹底事項』

- ① 用具は必ず規定のものを使用する。
- ② 足を上げてのスライディングなどの危険行為は禁止する。
- ③ 捕手のレガース・ヘルメット・プロテクター・スロートガード、ファウルカップと、打者と走者の両耳付きヘルメットは必ず着用すること。

<解説>

- * 投球練習時の控え捕手の防具も着用する。
- * ランナーコーチもヘルメットを着用すること。

- ④ 体当たりに代表されるようなラフプレーを禁止する。
- ⑤ 危険防止のため、極端な前進守備を避けるように徹底する。

<解説>

- * 一塁手・三塁手は塁間の半分、二塁手・遊撃手は一塁ベースと三塁ベースを結んだ所より投手が投球でリリースする前には出たはならない。

- (18) 規則5.10d【原注】[前段]、「同一イニングでは、投手が1度ある守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることはできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない」は適用しない。

<解説>

- * 中学校野球では登録人員の関連で本規則を適用しないとしたものである。作戦上の目的等、本来の趣旨からはなれて利用されることのないように留意されなければならない。

- (19) 投手は1日に7イニングを越えて投球をすることができない。ただし、延長戦、タイブレーク方式、特別継続試合は除くものとする。

<解説>

* 当該イニングで1球以上投げた場合、1イニングとしてカウントする。

- (20) 公認野球規則改正のうち、定義38「ILLEGAL PITCH」(反則投球)の【注】の削除について、下記の通りとする。

アマチュア野球規則委員会の通達通り“二段モーション”といわれる投球動作に関しては、走者がいない場合はボールとカウントしない。ただし、正しい投球動作を身につけるため、攻守交代時または、試合終了時にその投球動作を注意する。

- (21) 『監督が投手のもとへ行く回数の制限』

- ① 監督が1試合に投手のもとへ行ける回数は3回以内とする。なお、延長戦(タイブレーク方式を含む)は、1イニングに1回行くことができる。
- ② 監督が、1イニングに同一投手のもとへ2度目に行くか、行ったとみなされた場合(伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のもとへ行かせた場合)は、投手は自動的に交代しなければならない。”中学校野球”では、交代した投手が、他の守備位置につくことが許される。
- ③ 監督が投手のところへ一度行くか行ったとみなされた場合は、球審は、あと一度行けば投手を交代させなければならない旨を知らせる。なお、一度目に知らせなかった場合は、二度目に行こうとしたとき、球審はその旨を知らせなければならない。ただし、球審が知らせなくても、監督が同一イニングに同一投手のところへ二度行くか、行ったと見なされた場合は、投手は自動的に交代することになる。
- ④ 捕手または野手が、1試合に投手のもとへ行ける回数は、3回以内とする。なお、延長戦(タイブレーク方式を含む)となった場合は、1イニングに1回行くことができる。野手(捕手も含む)が投手のもとへ行った場合、そこへ監督が行けば、双方1回として数える。逆の場合も同様とするが、投手交代の場合は、監督の回数には含まない。

- (22) 攻撃側のタイムは、1試合に3回以内とする。なお、延長戦(タイブレーク方式を含む)は、1イニングに1回とする。守備側のタイム中に攻撃側は指示を与えることができるが、守備側のタイムより長引けば攻撃側の1回とカウントされる(攻撃側のタイム中についても同様)。

- (23) 塁上の走者およびコーチスボックスやベンチから球種などを打者に知らせるための行為を禁止する。

- (24) 7回を終了し勝敗が決しない場合、次のようなタイブレーク方式(特別延長戦)を行う。

<タイブレーク(特別延長戦)>

継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者とする。すなわち、0アウト一塁・二塁の状態にして1イニング行い、得点の多い方を勝ちとする。勝敗が決しない場合は、さらに継続打順で勝敗が決するまでこれを繰り返す。なお、通常の延長戦と同様、規則によって認められる選手の交代は許される。

- (25) 守備の時間が長い場合(概ね20分)には健康維持を考慮し、審判員の判断で給水タイムを設けることとする。

- (26) 4回終了後にグラウンド整備を5分程度行う。

- (27) ベンチ内での電子機器類(携帯電話、パソコン)の使用を禁止する。

- (28) 暗黒・降雨などで試合が途中で中止になった場合は、翌日に特別継続試合を実施する。

<解説>

* 特別継続試合は翌日の第1試合に先立って実施する。(チーム事情を考慮し、本部判断で変更する場合もある。)

* 特別継続試合を実施するチームは、一日3試合日程とならないよう配慮する。

(29) 応援団は次の禁止事項を守ること。なお、これについては各チームの部長・監督が責任を持って指導すること。

- ① 紙吹雪・テープ・個人名を書いたのぼり等を禁止する。
- ② 相手チームをやじったり、相手チームに不利を招くような応援をしない。
- ③ 応援席周辺を散らかさない。ゴミは持ち帰る。

【試合後】

(30) 試合終了後のあいさつはホームプレートを含んですべて完了することとし、次の試合のために速やかにベンチをあけること。

<解説>

- * ホームプレートを挟んでのあいさつ後、相手ベンチ前へ行ってのあいさつはしない。
- * 試合開始、終了時のあいさつは、部長・コーチもベンチ前で同時に行う。

(31) 各チームの部長または監督は、球場を去る前に本部に連絡し、次の試合日程等の確認を行う。

【その他】

(32) 監督・コーチは選手と同一のユニフォームを着用し、背番号は監督が30、コーチが29、28をつけること。

(33) 監督、選手のサングラス着用は原則認めない。ただし、医療目的とした場合のみ着用を認める。その際、大会初日のチーム受付（通告）時に大会本部（専門部）に申し出て承認を得ること。

(34) 使用会場の規定により、金属製スパイクは使用できない。ゴム製スパイクまたはトレーニングシューズ等を使用すること。

(35) ベンチ以外からの指示及びコーチングは一切認めない。

(36) 選手のテーピングは肌色に近い色のものを用い、投手は投球に影響を与えるものは使用できない。

(37) 選手の頭髪、身なり等は中学生らしく、試合中はもちろんのこと試合の前後においてもスポーツマンらしくマナーには十分留意すること。

<解説>

- * 頭髪は試合（競技）に邪魔にならないようにし、染髪、脱色、剃り込みやその他、中学生としてふさわしくないことをしない。
- * ハイカットのストッキング、リストバンドは禁止し、装飾品は一切表には出さない。
- * 相手を威嚇するような声かけをしない。声かけはベンチ直前で行う。
- * 野球用の手袋は打者・走者・投手以外の守備に使用できる。リストバンド、リストガードを兼ねたようなものは禁止し、手首より先のものに限る。
- * 打者のレッグガードやエルボーガード、リストサポーター等のユニフォームの外側に装着する装具は認めない。

(38) 申込書提出以降の登録選手・監督等の変更は、大会初日のチーム受付（通告）時に、校長名での変更願書（理由を付記）を提出し、大会本部（専門部）の許可を得る。

<解説>

- * 登録後身体的な障害を受け、出場不可能と認められる者が生じた場合のみ認められる。

(39) 天候等による大会の実施の可否、試合の中断および日程の変更は、大会本部で決定し連絡する。

(40) 使用するバットは木製、金属製、カーボン製とする。金属製バットについては金属材料とカーボン材料の複合製品は認める。その際「J・S・B・B」マークを付けた公認品で「SG」マークと中学生以上を対象とした「軟式用」表示のあるバットを使用する。